

福岡・近畿パーキンソン病研究の結果 食事パターンとパーキンソン病リスクとの関連

背景：単一の栄養素や食品ではなく、習慣的な食品の摂取傾向を総合的に把握することができる栄養パターンという評価手法を用いて、パーキンソン病リスクとの関連を調べました。

方法：症例群は UK Parkinson's Disease Society Brain Bank のパーキンソン病診断基準に基づき発症後 6 年未満の 249 名の患者です。福岡大学、大阪市立大学、宇多野病院、京都大学、京都市立病院、九州大学、久留米大学、大牟田病院、刀根山病院、南京都病院、和歌山県立医科大学でリクルートしました。対照群は福岡大学、大阪市立大学、宇多野病院に入院中もしくは通院中の患者で、神経変性疾患と診断されていない 368 名としました。33 食品群から因子分析により食事パターンを抽出しました。

結果：健康型、西洋型、軽食型という 3 つの食事パターンを認めました。緑黄色野菜、その他の野菜、海藻、豆類、きのこ類、いも類、果物、魚介類、みそ汁、緑茶の摂取が多く、アルコール摂取の少ない健康型食事パターンでは、第一 4 分位に比較して、第四 4 分位では有意にパーキンソン病のリスク低下と関連しました。肉類や卵摂取の多い西洋型食事パターンやパンや菓子類の多い軽食型食事パターンとは関連がありませんでした。

		Quartile				P for trend
		1 (lowest)	2	3	4 (highest)	
健康型	補正 OR	1.00	0.81	0.98	0.54	0.06
	(95% CI)		(0.50–1.30)	(0.61–1.59)	(0.32–0.92)	
西洋型	補正 OR	1.00	1.23	1.07	1.49	0.17
	(95% CI)		(0.77–1.97)	(0.66–1.74)	(0.92–2.40)	
軽食型	補正 OR	1.00	1.34	1.54	1.16	0.49
	(95% CI)		(0.82–2.18)	(0.95–2.50)	(0.69–1.94)	

結論：日本人において健康型食事パターンはパーキンソン病のリスク低下と関連しているのかもしれませんが。

出典： Okubo H, Miyake Y, Sasaki S, Murakami K, Tanaka K, Fukushima W, Kiyohara C, Tsuboi Y, Yamada T, Oeda T, Shimada H, Kawamura N, Sakae N, Fukuyama H, Hirota Y, Nagai M, Fukuoka Kinki Parkinson's Disease Study Group. Dietary patterns and risk of Parkinson's disease: a case-control study in Japan. *Eur J Neurol.* 2012; 19: 681-688.